



世界遺産への登録をめざす

武家の古都・鎌倉ニュース

Vol.22

冬号/Winter 2012

第22号平成24年(2012年)1月発行
発行：鎌倉世界遺産登録推進協議会
編集：広報部会 編集人：内海恒雄

◆ 鎌倉世界遺産のユネスコ登録を応援 ◆

黒岩神奈川県知事「武家の古都アピールに全力」

広域で鎌倉の世界遺産登録を進める行政のトップ黒岩祐治・神奈川県知事に会見し、ユネスコへの推薦書（暫定版）提出で登録に向けての着陸態勢に入った鎌倉の現状などについての考え方を伺いました。会見には鎌倉世界遺産登録推進協議会の卯月文、高木規矩郎、中村公司、福澤健次4氏が参加しました。黒岩知事の発言要旨をお伝えします。

ユネスコへの正式推薦について

正式推薦が決まって本当にうれしく思っています。鎌倉というのは大変な財産です。私は『いのち輝くマグネット神奈川』を理念として持っています。神奈川全体がマグネットの力を持つと同時に、それぞれの地域が引き付ける力を持ってほしいと思っています。鎌倉には歴史、文化、伝統がしっかりと根付いていて、人を引き付けるマグネットとしての象徴的な意味があります。世界遺産に登録されるよう私も応援していきます。

神奈川県の立場

米国メリーランド州と神奈川県の友好提携締結30周年記念で訪米し、ワシントンD.C.で観光プロモーションをしてきました。アメリカの旅行業者の方々に集まつていただいて、横浜、鎌倉、箱根をアピールしました。参加者の一人のアメリカ人が、「鎌倉は素晴らしいわよ。大好きなところ」と鎌倉での体験を語ってくれました。もちろん私も『武家の古都・鎌倉』をアピールしてきました。県知事として、鎌倉の魅力を発信していくことも大事な仕事だと思っています。地元のことは鎌倉市長がしっかりおやりになるでしょうが、そのムード作りは私の仕事ということです。

交通渋滞激化の不安

マグネットというのは、どんどん人を引き付けるという意味ですが、世界遺産登録でさらに車が増えたら大変なことになると思います。武家の古都だけあって、全体が城のようになり、外敵が入って来るのを遮るよう道がつくられているところがあります。

車社会と武家の古都というのは、今までなかなか共存できないのかなとも思います。「車と一線を画すまちづくり」もあるのではないかと思っています。



インタビューに応える黒岩県知事

鎌倉市でも、既にパーク・アンド・ライド等に取り組んでいらっしゃいますが、一般のお客さんの車は外で止め、中では電気自動車など環境に配慮した移動手段を確保するということができないでしょうか。そうすることで逆に付加価値が高まり、行きたいなと思うようになるのではないかでしょうか。

正式推薦から登録に至るまでの課題

とにかく武家の古都のアピールです。鎌倉市、神奈川県だけでなく、日本全体の気運を盛り上げて行かなくてはなりません。山梨、静岡、神奈川の3県知事が集まる山静神サミットでは、富士山と鎌倉を観光資源として一体的にアピールしましょうと言っています。一緒に登録をめざしましょうということです。外国に対するアピールも続けていきます。鎌倉は安売りしない方がいいですね。鎌倉ならではの文化や歴史といった雰囲気の中で、おもてなしの気持ちで迎えていただきたい。品格を持っておもてなしをするのが武家の伝統につながるでしょう。

登録後の課題

生活する中で外からのお客さんも楽しむというバランスのある町のあり方をめざしていかれることを望みます。お客様がどんどん来て安っぽくなり、住民が嫌だと感じるようになったら、それは決して幸せなことではありません。やはり皆がWin-Winというか住民の方も登録によって、世界遺産の町に住んでいる、すごいですねという感じになることも大事です。行きたいなと思う人も住民の方々から温かく迎えてもらえるという調和をめざしていただきたい。世界遺産になつてさらに愛される町になっていただきたいと思います。